

rsync 転送元のパス(絶対パス)を転送先ディレクトリで維持したい(階層構造を維持したい)

結論からいうと、R(大文字)オプションを使えば良い。

```
# rsync -avR /var/log /backup/
```

実行完了イメージ

```
- /backup
  |- var
  |  |- log
  |   |- boot.log
  |   |- auth.log
  |   |- :
  |   |- :
  |   |- ntpstats
  |   |- xxxx
  |   |- :
  |   |- :
```

手間を省きたい時に便利。大文字Rオプションを使わないと、
事前(初回)に、

```
# mkdir -p /backup/var/log
```

しておいて

```
# rsync -av /var/log/ /backup/var/log/
```

と、ひと手間増えるだけ。

ただ、バック対象ディレクトリが増えていけば、このひと手間が面倒くさい

(物理サーバーで)障害等の復旧の場合、

- ・ 同じ機種に)全戻しであれば、rsync

を使う場合もあるが、ディスクイメージを取得しておくか、dump/restoreコマンドになるだろう。

- ・ 違う機種の全戻しであれば、rsyncで、クリーンインストール後に /dev や /sys 等以外のディレクトリを戻す。

しかし、バックアップ領域を十分に確保出来ない場合、

一つの選択として、クリーンインストールから設定ファイルや作り込んだスクリプトを戻せたら良い！
とした場合、

rsync で 必要なファイル/ディレクトリを保存しておく。

往々にして、バックアップしておくのを忘れた～という事にもなるのだが。

著者のrsyncでのバックアップ対象は、

- ・ /etc 配下
- ・ /root 配下
- ・ /home 配下

(makeした際のディレクトリは、excludeオプションで除外。しかし、config.log/config.statusはバックアップ対象)

- ・ /opt
- ・ /var/log 配下

(後追いでログ確認用。ただ、バックアップ周期に兼ね合いで、障害直前のログは取得出来ていないので気休め)

- ・ /var/spool 配下

などである。

添付ファイル::

一意的なソリューション ID: #1009

製作者: n/a

